

奄美群島9自治体と水道スマメ実証 NTT西日本鹿児島支店・NTTテレコン九州支店 事業コスト削減、業務効率化へ

奄美群島9自治体とNTT西日本鹿児島支店(瓜生昌史支店長)、エヌ・ティ・ティ・テレコン九州支店(中島伸樹支店長)は8日、上水道関連業務のDX化に向けた実証実験を実施する協定を締結したと発表した。

地方自治体の公共施設・道路・水道などのインフラ整備に関わる事業費は増加傾向で、慢性的な人材不足も課題となっている。同実証実験を通じて、「検針業務の効率化により、検針コストの削減、および人員不足の解消」に難

検針の解消「蛇口の閉め忘れや漏水等によるトラブル早期発見」「検針時に利用する車両等の排出する二酸化炭素削減」といった効果を期待している。

実証実験は今年以降、準備が整った自治体から順次開始し、2026年5月までの期間で実施。NTTテレコン製の通信端末と電子式水道メーターを接続することにより、N



TTテレコンの集中監視センターを介して各自治体で水道メーターの遠隔検針を行う。漏水警報の機能を活用し、蛇口の閉め忘れや漏水等のトラブルの早期発見も期待できることから、実証実験を通じて、業務の稼働削減や住民サービスの向上について定量的な効果測定を行う。

複数自治体が連携することで、特定エリア間での情報共有や共同検証が可能となる。全国的にも珍しい先進的な取り組みだという。

各自治体の実証フィールドを提供、NTT西日本鹿児島支店が水道検針データの分析および上下水道業務のDX化に向けた検討、NTTテレコン九州支店が遠隔水道検針サービスの提供およびデータ

化と、それぞれ役割を担う。

遠隔検針による業務効率化の効果を定量的に評価し、特定エリア複数自治体による合同での実証実験という特性を最大限に生かし、通信端末を通じて収集されるデータを各自治体で共有し情報交換。検証結果を最大限高めるとともに、見守りサービスへの適用や自然災害への対応など、住民サービスの向上に向けたDXの推進やスマートメーターの共同調達によるコスト削減などについても検討していく。

8日に鹿児島県資源口イタルホテルで行われた調印式には、奄美市の安田壮平市長、大和村の伊集院幼村長、宇検村の元山公知村長、瀬戸内町の鎌田愛人町長、龍郷町の竹田泰典町長、喜界町の隈崎悦男町長、和泊町の前登志朗町長、知名町の今井力男町長、与論町の田畑克夫町長ら自治体首長、NTT西日本鹿児島支店の瓜生支店長、NTTテレコン九州支店の中島支店長が出席、協定書に調印した。